

証券外務員試験

一種二種
試験合格

合言葉de合格！法

オリジナルサブノートと手づくり連動問題集

「山！」と言ったら？ → 「川！」

「隣の客は？」と言ったら？ → 「よく柿食う客だ！」

「ニッポン！」と言ったら？ → 「チャ、チャ、チャ！」

合言葉とイメージで覚える・合格する！方法

サクセスキューブ www.success3.jp

はじめに

ああ～あ、続けてチャレンジしとけばなあ・・・

証券外務員一種試験の試験日が近づいてくるにつれ、若干ブルーな気持ちになっていたのです。

二種の合格から半年。
日々、平穏な毎日を過ごしておりました。

そこへ、一種外務員にも合格せよ！との指令が・・・
(お許しくださいませ、お代官様。わしゃあ、もうこれで十分ですだ。)

あれほど、周囲から
「二種に合格したら、すぐ一種の勉強を開始して（記憶が薄れないうちに）一種試験まで合格しといた方がよいよ」とアドバイスされていたのに・・・。

いちど薄れた記憶（二種試験合格レベルの記憶）は、呼べど叫べど帰ってきてくれませんでした。

みごと！（予想どおり）一種試験・不合格！でした。
そこには、（落ちるであろうという）期待を裏切らない自分がいたのです。

また、何ごともなかったかのように始まる平穏な毎日。
いつまでも、いつまでも幸せに暮らしましたとき。
・・・のはずが・・・

そこへ再び突然の指令が、いや神のお告げが・・・
「今度、一種試験に落ちたら、配置転換がいい？ それとも・・・」

こうなると、もうやるしかないですね。
今度は、約1ヶ月ちょっとの集中的な勉強でみごと「合格！」することができました。

この体験から生まれたのが、合言葉 de 合格法です。
合格体験記風に物語りを作成しました。
少しだけですが老婆心ながらのアドバイスをさせてください。

(登場人物)

B e f o r e な「私」・・・以後、B氏＝備田（びた）氏と設定する。

A f t e r な「私」・・・以後、A氏＝江田（えだ）氏と設定する。

第1章 二人の私（ノウハウとの出会い）

（主人公）備田は、仕事帰りに馴染みの大型書店に立ち寄っていた。
いつも趣味の分野にしか立ち寄らないのに、今日だけは資格試験コーナーにいたのである。

江田：「あれ？ 備田じゃないか。久しぶり！」

備田：「おおう、江田か。何してんだお前。」

江田：「お前こそ、ここで何やってんだよ。」

実は、備田と江田は高校時代の同級生である。
大学が県外と県内に分かれての進学となり、その後の就職活動でもそれぞれ県内企業を希望しながらも顔を合わすことはなかったのであった。

お互い同じような仕事に就いていたことだけは知っていたものの、再会は本当に久しぶりのことであった。

しばらくは懐かしい話や互いの近況報告を立ち話的に雑談した後で・・・

備田：「ところで、県外の勤務地にいるお前が、なんで今日、この本屋に？」

江田：「実は、出張で来てるんだけど。今度、内部管理責任者を受験することになってその参考書探しに来たってわけさ。
明日の帰りの電車の中で勉強しようと思ってね。」

備田：「えーっ、すごいなあ。ということは、すでに一種外務員試験を合格してるってことじゃないか。
オレ、まだ二種までしか合格してなくてさ、しかもこの前、一種試験を受験したけど、みごと玉砕。最近、上司からのプレッシャーがすごいよ。（笑）」

江田：「そうか。じゃあ、次回は絶対合格しなきゃならないな。
俺は、約1ヶ月半くらいの勉強で合格したけど。二種と違って一種は、極端にハードルが上がるもんな。」

備田：「そーなんだよ。しかも二種試験合格した後、しばらくそのまま何にも勉強せずにいたら二種の記憶が消えちゃってさ。
そこから、もがいている最中さ。（苦笑）」

江田：「そーなんだ。大変だな。」

備田：「そうだ！ 江田、お前今日はどこか泊まるのか？」
「この後、飲みに行かないか？ 一種試験についていろいろアドバイスして欲しいと思っているんだ。」

江田：「いいよ。喜んで付き合うよ。懐かしい話もたくさんできるだろうしき。」

備田は、江田を誘って馴染みの居酒屋で晩飯を共にすることにしたのである。
軽く乾杯した後で、備田が話しかけた。

備田：「ところでさ、酔っ払う前に聞いておきたいのだけど。
お前、どんな勉強・やり方で合格したの？」

江田：「基本的には、土日の休みに少し（まとまって）勉強して、平日は通勤時に問題集を眺めたり、問題をICレコーダーに録音したものを歩きながら聴いたり、というやり方で勉強したなあ。」

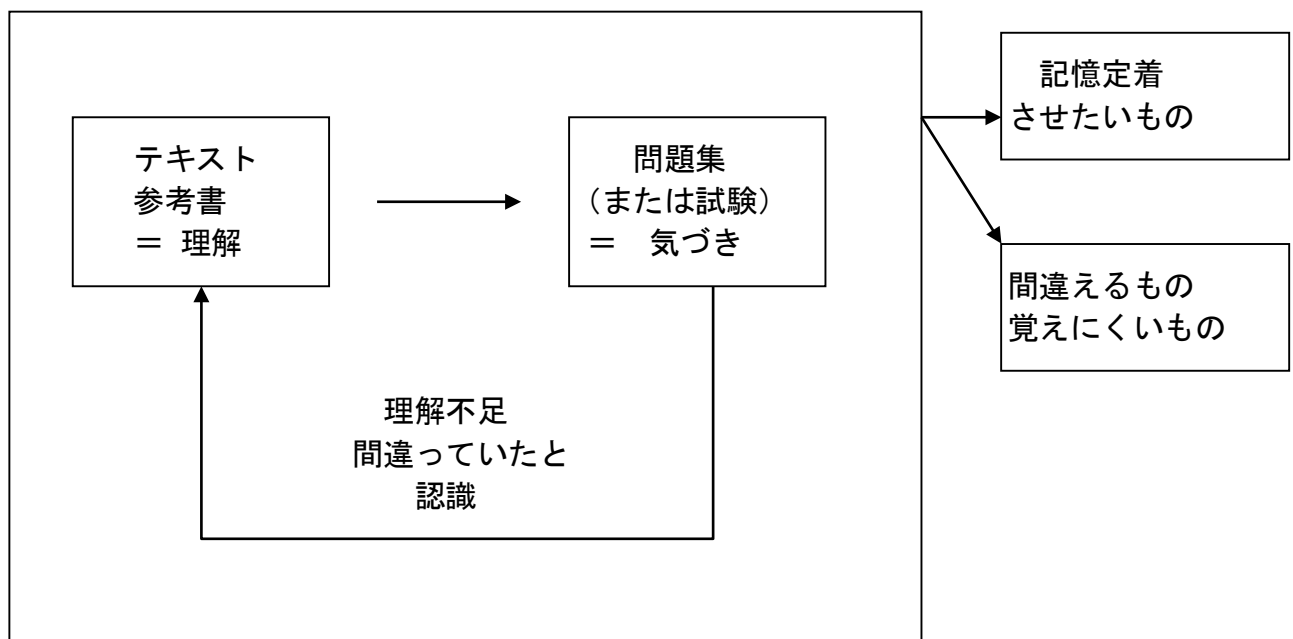
備田：「だよなー。平日、仕事が終わってから勉強する気力・体力残ってないよね。
でも、それで良く1ヶ月ちょいで合格できたな。すごいじゃん。」

江田：「そんなことはないよ。誰だって効率良くやれば合格できる試験だよ。
司法試験とか、税理士試験みたいなものと違うから。」

江田：「ポイントは3つだと思っているんだ。この3つのポイントというのを話しするけど、その前に、普通の勉強法・学びの要領というのをチェックしてみようか。」

江田は、そう言ってテーブルの上にノートを取り出した。カバンの中にいつも入れているらしい。そのノートに図を描きながら備田に話しかけた。

江田：「普通の学習って、こんな感じだろ？」



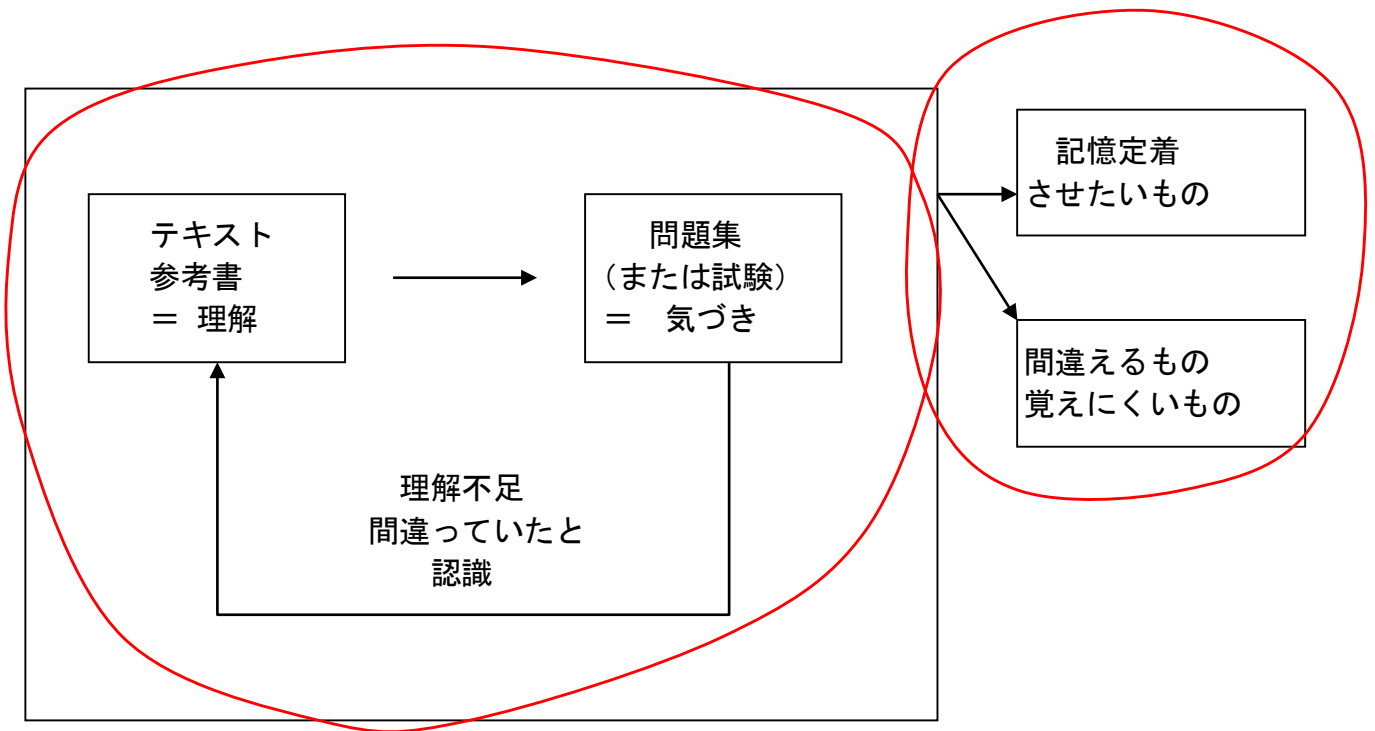
理解 ⇒ (練習問題で)お試し=実践 … 新たな気づき ⇒ 定着化(反復)

江田：「参考書読んで（理解できるところ、できないところがあって）、練習問題にチャレンジして、またそこで新たな気づき（出題パターンなど）があって、そこから記憶に定着させたいもの、覚えにくいものなどを、理解と繰り返し・繰り返して（試験本番中に）思い出せるレベルにまで持って行く。」

備田：「そーだよね。それをいかに効率よくやれるかどうか、ということかな。」

江田：「そのとおり。分かってるじゃん。あとは実践あるのみ、か。（笑）」

江田は、ポケットから今度は赤ボールペンを取り出した。
そして、おもむろにノートに描いた図に大きなマル印を書き込みながら話を続けた。



理解 ⇒ (練習問題で) お試し=実践 . . . **新たな気づき** ⇒ 定着化 (反復)

江田：「要は、この理解と気づき、そして定着化のための反復。これを、いかに・どれだけ効率よくできるかどうかの勝負だ。
俺たちみんな、仕事しながら勉強しなきゃならないから、ネ。」

江田：「だから俺の場合は、

- ①この理解と気づきのための勉強が、土日。
あるいは、時間と体力に余裕のある平日の夜。

②そして、この反復のための時間が（平日の）通勤時間。
というスタイルを構築したのさ。
1ヶ月半くらいのエネルギー投入で合格！まで到達できたってわけ。」

備田：「だよな。オレもある程度は分かってるんだけどさ、できていないんだよな一。」

江田：「頑張り過ぎるからじゃないのか？（笑）」
「100点満点なんかとる必要はない試験だよな。70点、7割でいいんだ。
そう割り切ればいいんだよ。」

江田：「そもそも白紙で答えられなかったとか、穴埋めできなかったというのは絶対にない試験だ。」

「○×か、5者択一。あるいは、5つの中から2つ選ぶパターン。
計算問題でさえ、用意された複数の解答例から選択するだけの問題しか出題されないのだから。」

備田：「ありがとう。何か少しだけど、またやる気が出てきたような気がする。」

江田：「定着化のための、繰り返し・繰り返し、いわば反復×反復のための方法として
ICレコーダーを活用する手もあるよ。
最近のICレコーダーは安価で、倍速機能がついたものも手に入りやすくなって
いるしな。」

江田：「勉強法そのものについて、まとめると・・・」

江田は、そう言って次のようなまとめを示してくれたのである。

- ・ **満点は必要なし。理解度70%（7割）でOKと割り切る。**
- ・ **まとまった時間とコマ切れ時間の活用で70点に到達する。**
- ・ **コマ切れには、スマホ・ICレコーダー（倍速）も便利。**
- ・ **どこまで「理解と気づき」の時間を減らせるかを意識する。**

※ スマホ・ICレコーダーへの録音は、YouTube講座としていつでも視聴できるように
いたしました。⇒ <http://www.success3.jp>

第2章 前もってのアハ！体験で70点

備田：「そうか。理解と気づきの時間をできるだけ減らして、通勤時間などのコマ切れ時間で、繰り返し・繰り返しを実践する、ということだな。」

備田：「お前さあ、ちょっと前にポイントは3つ、と言ってたよね。あれは・・・？」

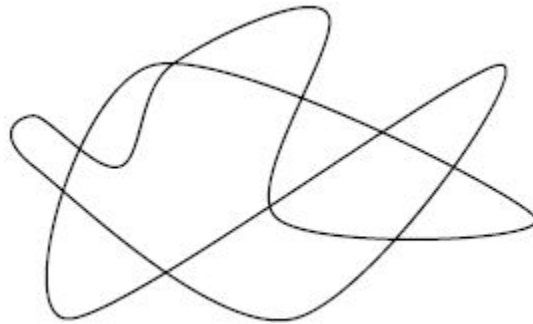
江田：「うん。その話に入るよ。まず1番めは、アハ！体験についてだよ。」

備田：「アハ！体験？」

江田：「そう。よく、こんなのあるじゃん。」

「俺、あんまり絵が得意じゃないから、ピンとこないかも知れないけど。」

そう言うと江田は、ノートに白と黒の模様を描き始めた。



ノートに描いた図に、適当に（備田には、そう思えた）斜線で模様を塗り始めたのである。



江田：「俺の反対側に座っているお前の方からじゃ、よく分からないかも知れないな。テレビ番組などで、脳学者の茂木先生が言ってるのを見たことない？」

備田：「あー、白と黒の模様を見て何に見えるか（何が隠れているか）？ というやつだろう？ 見たことあるよ。」

牛とか、髭（ひげ）をはやした中年男性（紳士）とかが見えるやつだろう？」

江田：「そう。それまで、まったく見えていなかったものが、一度見えてしまうと = 気づいてしまうと、ずっと見えるようになる、というものだよな。

その時の『快感』が、茂木先生の言うアハ！体験だね。」

「じゃあ、この白黒の模様は、こうすると、耳と手足とおしりと尻尾の黒い猫に見えてこないかい？」



備田：「おーっ、見えてくる、見えてくる。ちょっとした感動だね。」

江田：「要は、これなんだ。一度、見えてくればOKなんだ。」
「満点とらなくてもいいのだから、試験会場で、確か・・・と思い出せば良いので、一度、違いや特徴などを理解し (=気づき) さえすれば良いのさ。」

備田：「そうか。ということはテキストや参考書の内容を自分なりに分類したり、色分けしたり、対比したり、ということがきっちりできれば良いということだね。」

江田：「そのとおり。一度、やれてしまえば (理解・気づいてしまえば)、あとはそれがきっかけとなって (試験本番でも)、『あー、確かこれは・・・』と思い出せることになるのさ。」

備田：「でもさあー、それって時間のかかることだろ？
毎日毎日、仕事しながらテキスト読んで、(自分なりに) 他の参考書やネットなども活用して調べる、まとめる、対比する、というのは大変だろう？」

江田：「そうだね。俺もそれをお前に求めようとは思っていないよ。
普通は、ここに時間がかかってしまう。だから、それをクリアすることを考えなければいけないのさ。」

備田：「そんな上手い方法なんかある？」

江田：「あるよ。後でこっそり教えるからね。(笑)」
「要は、手品のタネを考えて考えて、時間を費やしてから教えてもらう、というのを、先に教えてもらうことができれば、それがいちばんありがたいことになる = (つまり) 効率的な試験勉強ができる、ということさ。」

江田：「試験問題で、こんな『ひっかけ』問題があるよね。」
「〇〇は、原則として・・・とか、〇△は、必ず・・・である。
というようなヤツ。」

備田：「あー、確かにあるある。よく間違うんだよ。」

江田：「一種の試験範囲の中に、災害デリバティブ、というのがあるんだ。試験問題で『災害デリバティブにおける地震オプションは、異常気象や天候不順による～』という問題が出題された時に、反対の概念である天候デリバティブというものの対比ができていないと、ついうっかり〇（まる）！と解答してしまうこともあるやつだね。」

江田：「自分も最初あわてて、災害デリバティブだという単語を見た瞬間に、異常気象も含まれるよね、と勝手に判断して間違ってしまったこともあったけど。」

備田：「そうか。それでも合格したんだ。安心したよ。」

江田：「こういった小さな『気づき』のアハ！体験を、試験前に＝手品のタネあかしの
ように、たくさん経験できれば、試験本番の70点なんてすぐだよ。」

江田は、少し微笑んでから次のようなまとめをしてくれた。

- ・ 「理解」と「気づき」には、アハ！体験がいちばん。
- ・ アハ！体験で、理解したもの・気づいたものは、試験会場でも思い出せる。
- ・ 外務員試験のアハ！体験とは、手品のタネをバラしてもらうようなもの。
- ・ アハ！体験のための上手い方法がある。（あとで紹介）

第3章 繰り返し・繰り返し体験で70点

だいぶアルコールが進んできたのが原因だろうか、江田が突然、質問した。
備田は、何のことか分からなかったので面食らってしまっていた。

江田：「山！と言ったら、川！。
隣の客は？と言ったら、良く柿食う客だ！」

「では、ニッポン？と言ったら？」

備田：「えっ？」

江田：「ヒントやるね。
よく日本代表のサッカーの試合や、バレーボールで海外のチームと試合する時に
耳にするよ。」
「で、ニッポン？と言えよ？」

備田：「チャ、チャ、チャ？」

江田：「正解！ピンポーン！」

江田：「そう、ニッポン、チャ・チャ・チャ！だよな。」
「これって、街かどで誰かにたずねても、ちゃんと返ってくると思うよ。」

備田：「何がいいたいの？」

江田：「悪い、悪い。（笑）」
「こういう短いフレーズって、馴染みやすいと思わない？」

江田：「これを、俺は『合言葉』って言ってるんだけどね。
要は、こういう短いフレーズの合言葉（もちろん外務員試験に関連してだけど）を
たくさんたくさん耳にしていれば、どうだろうか？」

備田：「何か、試験の時に思い出せそうな気がするよ。」

江田：「だろう？ さらに、それを繰り返し・繰り返しで目にしていたり、聴いたりして
いたら（記憶への）定着化が図れることにもなるよね。」

江田：「短いフレーズを合言葉的に反復したら、記憶と試験会場で引き出す時の手掛りにな
りやすいのさ。」

江田：「お前も一度は外務員二種の試験を受けているし、一種の試験も受けたんだろ？」

備田：「あー、一種はみごとに撃沈しちゃったけどな。（苦笑）」

江田：「なら、問題のパターンもある程度は理解しているよね。
そもそも3つのパターンしかないんだよ。」

と言って江田は、またまたノートに表を書き始めたのだった。
次のような3つに分かれた表を、備田に示してくれた。

パターン【1】	パターン【2】	パターン【3】
富士山は、日本でいちばん高い山である。 ○か×か？	イ. 富士山は、日本でいちばん高い山である。 ロ. 東京タワーは、日本でいちばん高い電波塔である ハ. 琵琶湖は、日本で二番めに広い湖である。 1. イロハすべて正しい。 2. イが正しく、ロハは間違い。 3. イロハすべて間違い。	求人数・・・5人 求職数・・・10人の時 有効求人倍率は 1. 0.5倍 2. 1.0倍 3. 2.0倍である。

江田：「外務員試験って、この3つのパターンしか問われないんだよな。」

備田：「あらためて言われてみると、そうだね。」

江田：「つまり、【2】のパターンでも、富士山は、日本でいちばん高い山である。
・・・○（マル）！ということが分かれば、選択肢の中で、3は間違いであるということがすぐに分かるし（正解は1と2のどちらかの確率50%になる）、
また、もし、ハが間違いである、ということが分かれば、例えロのことが分からなくても正解を見つけることは簡単だよな。」

江田：「ということは、どれだけこういう○（マル）、×（バツ）という問題を（理解・気づいて）こなせるか、ということも大切になってくる。」
「パターン【3】にしても、公式を覚えていれば単純な問題に化けてしまう。」

備田：「そうか、そうか。
どれだけ理解・気づきと、出るような問題をパターン化して触れておくか、ということが重要だ、ということだね。」

江田：「そのとおり！」

江田：「だから、（理解して・気づいたら）短いフレーズの○×式の問題パターンでいいから、どんどん反復・反復することが大事となる。」

江田が昔のことわざをしゃべっていたけど、備田は合格できそうな予感がしてきて、江田の話（ことわざの部分）を聞き漏らしていた。

江田が話したことわざは、

- ① 読書百篇、意おのずから通ず。と
- ② 門前の小僧、習わぬ経を読む。であった。

江田は、だんだんと備田が『ほろ酔いかげんになってきているなあ』と思いながらまとめを急ぐことにした。

- ・ **合言葉の短いフレーズは、（記憶に）残りやすいし、思い出しやすい。**
 - ・ **反復・反復、繰り返し・繰り返し、で記憶のミゾ（刻印）が深くなるのは事実である。**
 - ・ **計算問題でも短いフレーズにして合言葉的に覚えると楽である。**
 - ・ **短いフレーズは、コマ切れ時間の活用にぴったり。**
- （スマホ・ICレコーダーを使う手もある。
- もちろんハンディタイプの問題集を持ち歩くという手もある。）**

（繰り返します）

※ スマホ・ICレコーダーへの録音は、YouTube講座としていつでも視聴できるようにいたしました。⇒ <http://www.success3.jp>

第4章 合言葉とイメージで70点

江田は、備田の目が少しだけ「とろ〜ん」として来ていることに気づいていた。それで、少しだけ目を覚ましてやるために、固い表現で話し始めた。

江田：「お前、プロテクティブ・プットって知ってる？」

備田：「はあ？ 何それ？」

江田：「これって、一種試験の範囲だぞ。（苦笑）」

備田：「何？ そうなのか。じゃあ、いま覚えるから教えてくれ。」

江田：「では、ここで質問です。

『プロテクティブ・プットとは、原証券の買い持ちとプットの買いを組み合わせた戦略である。○か、×か？』

さあ、どっちだ？（笑）」

備田：「うーん、×（バツ）！」

江田：「ブブー。残念！ 正解は○（マル）！ でした。」

備田：「こんなヤツも覚えなきゃいけないのかよ。
自分の仕事じゃ、絶対に出てこない概念（単語）だぞ。」

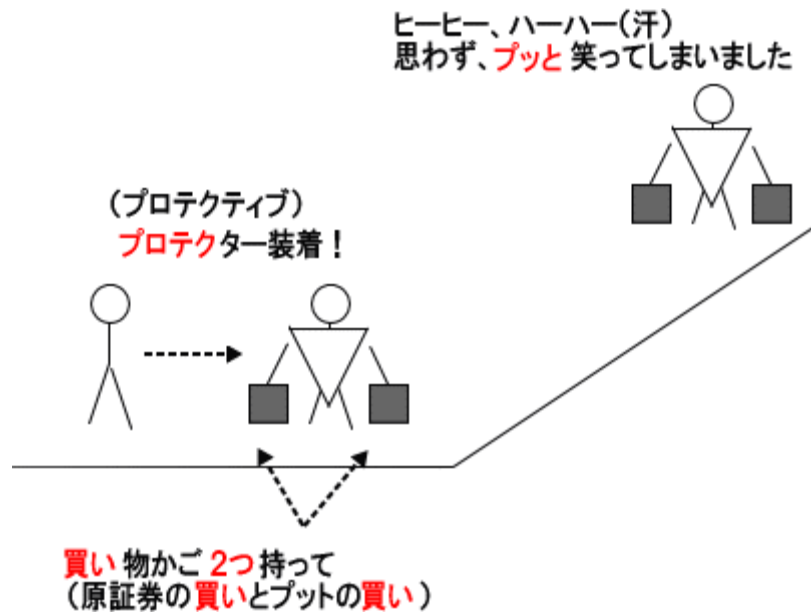
江田：「難しく覚えようとするからだよ。
いいかい、こんな風に考えみてよ。」

江田：「お前が、野球のキャッチャーのようにプロテクターをつけて、買い物かごを2つ持っています。

いいか、両手に買い物かごだから2つの『買い』と『買い』だよ。

そして、その重たい買い物かごを持ったまま、階段（坂道）を登るのさ。
疲れたお前は『ヒーヒー、ハーハー。思わず、（疲れたあ〜で）プッと吹きだしてしまいましたとさ。チャン、チャン。」

そう言いながら、江田は、テーブルの上に置いたノートにまたまた図を描き始めていたのだった。



江田：「下手な絵だけど、我慢してくれ。
どうだい、この絵を見て、『プロテクティブ』という単語と『買い』と『買い』
そして、『プツ』という単語は、思い出せるだろう？」

「プロテクティブ、プツ、買いと買い、の単語から

『プロテクティブ・プツは、原証券の買い持ちとプツの買いを組み合わせた
戦略である。○か、×か?』という問題が出題されたら、できる？」

備田：「できる、できる！ズバリ、○！じゃないか！」

江田：「ピンポ〜ン！正解！」

備田：「すげえなあ。これならオレでも覚えられるし、試験会場で思い出せるよ。」

ついさっきまで、トロ〜ンとした目をしていた備田は、すっかり酔いが醒めてしまったかの
ような感じで興奮しながら、江田が描いたノートに見入っていた。

江田：「これって、意味なんか分からなくても正解できるだろう？
外務員試験の場合、これで十分なんだよ。」

「満点は必要なし。70点・70%・7割でOKなのさ！」

備田：「こんな覚え方って、どこで情報を仕入れたんだよ？
お前が自分で考えついた覚え方なのか？」

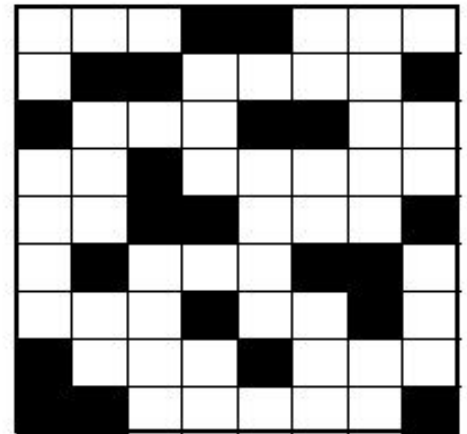
江田：「百聞は一見にしかず、だね。」

江田：「もう一つ、話しをするね。クロスワードパズルって知ってるよね。」

備田：「あー、こんなやつだろう？」

とって備田は、江田からボールペンとノートを借りて描き出した。

江田：「そうそう。
あれってさあ、タテ・ヨコすべての鍵が
分からないと正解が出てこないものだけ？
違うよね。」



江田：「クロスワードパズルといっしょだよ。
特に選択問題などは、全部がわからなくても
いいのさ。」

だから、70点でOK。
70%の理解・記憶で合格ラインに到達できるんだよ。」

備田の目は完全にシラフの状態に戻っていた。
夕食を共にした二人の時間がだんだんと少なくなってきていたので、江田は最後のまとめに入ることにした。

- 合言葉に加えて、イメージで覚えるやり方は記憶へのインパクトが強い。
- 短いフレーズで、そしてイメージも活用する。
- クロスワードパズルのように、どこかがわかれば良い。
- (試験会場で) 思い出す時のフック(釣り針)は、自己流でOKなのだ。

第5章 合格の約束

備田：「お前が言った、アハ！体験のための上手い方法って何だよ？
それとさ、イメージでの覚え方、どうやったのか教えて欲しいよ。」

江田：「いや、残念ながら自分で全部やったものじゃないんだよ。
あるところから入手した情報（外務員試験合格のためのノウハウ）を使って
効率的に時間を活用した結果が、外務員一種試験合格という形になったのさ。」

江田：「ただ、俺は、その情報源との出会いがあって良かったと思っている。
そこから得たのは、単に外務員一種試験合格のための情報・ノウハウだけでなく
自分の人生そのものにおいて、夢を実現する「コツ」みたいなものも知ることが
できたような気がするんだ。

だから最近は、こんな風に考えるようにしているんだ。
一度きりの人生を、しかも主人公は自分自身じゃないか、夢見るだけの人生じゃ
なくて、自分で夢を実現する人生にしたいなあ、いや必ずそうするゾ、とね。」

備田は、きらきらと目を輝かせている江田がまぶしく見えてしょうがなかった。

江田：「これがその情報源さ。もちろんその情報源からのノウハウが自分に合っているか
どうかは分からないよね。
ただ、外務員試験に合格するためのヒントになりそうなものが、自分流のやり方や
コツに気づくための何かが見つけれられるかも知れないから、ぜひ一度、確認して
みることをお薦めするよ。」

そう言って、江田は自分の名刺の裏に、あるアドレスを書いて渡した。

備田：「ありがとう。今日は、本当に良かったよ。懐かしい話もたくさんできたしな。」
「感謝・感謝！だ」

江田：「いや、俺の方こそ、楽しかったよ。」

備田と江田は、がっちりと握手をして別れた。

その後、携帯のメールアドレスを教えた備田から、江田のもとに一通のメールが届いた。

「江田、ありがとう。オレも1ヶ月半のチャレンジで合格できたゾ。感謝・感謝だ！
みんなお前のおかげだ。本当にありがとう。

今度会った時は、絶対おごるからな。（笑）
オレも自分の夢実現に向かって進めそうだ。

とにかく、ありがとう。」

江田の手のひらに、握手した時の感覚がよみがえってきていた。

(完)

さいごに

いかがでしたか？

自分なりの理解・気づきを実践して合格した体験を物語りにしてみました。

老婆心ながらのアドバイスで、お役に立てたかは分かりません。
もし参考にしていただけたら幸いです。

もう一度、ポイントを示したいと思います。
同じような話しを何度もしている点があります。
それだけ自分にとっては重要だったとあっていただけたらありがたいです。

ノウハウとの出会い

- ・ **満点は必要なし。理解度70%（7割）でOKと割り切る。**
- ・ **まとまった時間とコマ切れ時間の活用で70点に到達する。**
- ・ **コマ切れには、スマホ・ICレコーダー（倍速）も便利。**
- ・ **どこまで「理解と気づき」の時間を減らせるかを意識する。**

前もってのアハ！体験で70点

- ・ **「理解」と「気づき」には、アハ！体験がいちばん。**
- ・ **アハ！体験で、理解したもの・気づいたものは、試験会場でも思い出せる。**
- ・ **外務員試験のアハ！体験とは、手品のタネをバラしてもらうようなもの。**
- ・ **アハ！体験のための上手い方法がある。**

繰り返し・繰り返し体験で70点

- ・ 合言葉の短いフレーズは、（記憶に）残りやすいし、思い出しやすい。
- ・ 反復・反復、繰り返し・繰り返し、で記憶のミゾ（刻印）が深くなるのは事実。
- ・ 計算問題でも短いフレーズにして合言葉的に覚えると楽である。
- ・ 短いフレーズは、コマ切れ時間の活用にぴったり。

（スマホ・ICレコーダーを使う手もある。もちろんハンディタイプの問題集を持ち歩くという手もある。）

※ スマホ・ICレコーダーへの録音は、YouTube講座としていつでも視聴できるようにいたしました。⇒ <http://www.success3.jp>

合言葉とイメージで70点

- ・ 合言葉に加えて、イメージで覚えるやり方は記憶へのインパクトが強い。
- ・ 短いフレーズで、そしてイメージも活用する。
- ・ クロスワードパズルのように、どこかがわかれば良い。
- ・ （試験会場で）思い出す時のフック（釣り針）は、自己流でOKなのだ。

ここまで本当にありがとうございました。

A氏とB氏、A f t e rな「私」とB e f o r eな「私」、という設定で読んでいただきました。

たぶん、明日になっても明後日になっても、江田と備田という単語（氏名）は覚えていらっしゃると思います。
あなたにとって全然関係のない名前だったにもかかわらず、です。

実は、これって「合言葉d e合格！」の考え方の一つです。
対比させる・意味づけする、ということで普通よりも「より強く」意識・記憶の中に刻みつけられたからに他なりません。

実際の試験勉強において、どんな感じになるのか、ぜひ体感してみてください。
一種試験・二種試験のオリジナルサブノートがいくつか無料でダウンロードできるようになっています。
(サブノートに連動した手づくり問題集もあります。)

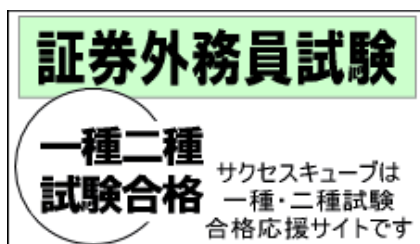
何かしら（あなたにとっての）ヒントが見つければ、こんなうれしいことはありません。

いっしょに外務員試験にチャレンジしているお友達やお仲間にも、ぜひこのガイドブックを紹介していただけたらありがたいです。

証券外務員試験合格を応援する「合言葉d e合格！」のサイトでは、サブノートの無料ダウンロードの他に、外務員試験合格までのやる気と思いを持続するための「夢実現日記・外務員試験合格」も無料でプレゼントさせていただいております。

夢実現日記は、オリジナルの日記で、あと90日、あと89日、88日、87日というように90日間カウントダウンで毎日毎日を充実させるための日記です。

自分の人生の夢実現に応用が効くように考案したものです。
あなたの外務員試験合格とあなたの人生における夢実現を心からお祈り申し上げます。



<http://www.success3.jp>

合言葉d e合格

検 索

一種外務員・二種外務員試験合格応援サイト

証券外務員合格

合言葉 d e 合格！法

www.success3.jp

サクセスキューブ株式会社

Copyright (c) [http://www. success3.jp](http://www.success3.jp) All Rights Reserved.

本文書は著作権法によって守られているものです。
無断での転載・利用禁止。